

## 平成 29 年度版 CROWN English Communication I New Edition

発行者		教科書	
番号	略称	記号	番号
15	三省堂	コI	333

## 1 特色および題材内容

## 〈特色〉

- ことばの教育、国際理解教育、人間教育を題材選定の基本とし、これらの領域で生徒の知性や感性を考慮して、生徒の興味を喚起する内容にしました。
- ことばと人間との関係やことばと社会との関係など広くことばへの関心を高め、思考力、表現力の育成を促し、豊かな言語観を育てます。
- ことば、文化、民族の多様性とその共存を国際理解の基本理念とし、国際感覚と国際協調の精神の育成を図ります。
- 英語の学習を通じて、自ら考え、判断し、表現する力を培います。英語の文章を読んだり聞いたりすることにより視野を広げ、ことば・文化・人間・社会・自然などについて考えたり、多くの人とかかわる経験をすることで、思考力・判断力・表現力を養えるような配慮しました。また、そうした活動・体験を通して、他を受け入れ、個人の価値を尊重することのできる豊かな心を育成し、自分の考えや自分たちの文化を外に発信していける力を培います。
- 豊富な選択教材を用意し、個々の生徒の理解の程度に応じた指導の充実をはかることができます。

## 〈題材内容〉

- テーマは、生徒の興味・関心を喚起するものを精選し、具体的には日常生活・学校生活、言語と民族、比較文化、平和や地球環境、国際協力、科学技術や芸術・音楽、社会貢献、歴史、人間としての生き方など多様な内容を取り上げました。文章は、スピーチ、インタビュー、レポート、レクチャー、対話文、説明文、物語など変化をもたせました。
- とくに伝統文化や科学の充実に配慮し、伝統航法の継承、アンドロイド研究などを取り上げました。また、ボランティア活動や社会貢献などのテーマも積極的に取り上げました。
- 場面や登場人物は、英語が広く使われている現況と国際理解の課題との関係から、日本を中心に、英米を中心とした英語圏諸国、アジア、アフリカの国および人物を配置しました。

## 2 言語材料の扱い

## 〈文型・文法〉

- 文型・文法の解説に十分な分量をさき、基礎・基本の学習を重視しました。
- 中学校の復習から基本的な文法項目までを段階的に配置しました。既習事項は本文でくり返し扱い、反復学習します。高校入門期の 1、2、3 課は主に中学校における復習とし、生徒の負担にならないように移行に配慮しました。
- 文法事項は表現活動に活用することを基本として、より基本的な文法事項を扱いました。
- 文構造は、英語で言語活動をおこなうにあたって使用できるように、より運用度が高いものを扱いました。

## 〈単語・熟語〉

- 限られた語彙の中でも豊かな表現ができるよう、単語や熟語は使用頻度の高いものを精選しました。
- 既習の語彙をその後の課でも扱い、反復学習ができるように工夫しました。

3. 中学校既習語を 1,197 語とし、それ以外の語(423 語)を新語として脚注上段で示しました。また、連語・熟語、表現については、脚注中段で示しました。
4. **Optional Lesson** では 48 語の新語を取り上げました。

### 3 言語活動

1. 実際のコミュニケーションにおけるメッセージの役割を重視し、「言語の使用場面」の明確化と「言語の働き」に留意しながら、創造的な言語活動を目指します。
2. 中学校における学習で習得した基礎的な能力をさらに伸長させながら、4 技能における言語活動を総合的・統合的に扱いました。
3. スピーチ、レポート、インタビュー、レクチャー、対話、物語文などさまざまな形式が用意されており、生徒が自己発信する際のサンプルとして有用です。
4. **Take a Moment to Think** は本課の内容を喚起させ、生徒の興味・関心を呼び起こす **Pre-Reading** 活動としました。
5. **Your Reaction** は本文の題材内容に関連した発信型の創造的な言語活動です。「読んで話す」「聞いて話す」「書いて話す」など、4 技能を統合的に扱いました。また、ダイアログでは会話で多用される慣用的な表現について、基本的なものを精選して扱いました。
6. **Grammar** の最後では、新しく学習した文法項目を用いた自己表現活動を配しました。
7. セクションごとに配したリスニング問題(T-F)、**Sound Studio** など、「聞く」活動も充分におこなえるよう配慮しました。
8. **Reading Skill** では、読み方の技術としての基本を系統的に示しました。

### 4 構成と内容

1. 各課の本課本文は、4 技能の習得を目指す総合的な教材としました。各課は原則として 3~5 セクションで、1 セクションは 200 語前後で構成されています。また、各セクションは見開きで提示され、使いやすさに配慮しました。
2. 各課の冒頭には **Take a Moment to Think** を配し、生徒の背景知識を活性化させる **Pre-Reading** 活動とするとともに、英語で授業をする際にスムーズに導入できるように配慮しました。
3. 各課の基本本文は脚注に〈G〉として示しました。
4. 各ページの脚注には、上段に新出語、中段に熟語・連語、表現、および基本本文、下段に本文の内容に関する質問〈Q〉を示しました。表現のごく一部については訳語を付しました。また、本文使用語のうち、中学校既習とみなした語は巻末 **Word List** の中で太字体(ボールド体)で示しました。
5. 脚注の熟語には安易に日本語を与えず、例文や同義語を示すなどして、生徒の学習意欲を喚起する配慮をするとともに、英語で授業をおこなう際の一助となるようにしました。
6. 各課の練習問題は、**Comprehension (Check, Summary, Food for Thought)**、**Activities**、**Grammar**、**Exercises** で構成し、4 技能の言語活動が、総合的・統合的におこなわれるように配慮しました。以下は、各項目の概略です。

**Comprehension** : 本課の内容の確認と要約。**Check, Summary, Food for Thought** で構成。**Food for**

**Thought** : 本課の中心的なテーマをつかむための PISA 型読解力養成のための設問

**Your Reaction** : 本課の題材内容に関連した発信型の創造的な言語活動

**Grammar** : 本課で扱う基本表現、関連する文型・文法項目の提示

**Exercises** : 新出の文法項目や熟語・連語、表現などの練習問題

7. 各課の最後には **Optional Reading** を選択的教材として配置し、本課に関連するテーマを別の角度・視点から考えることができるようにしました。
8. **Reading Skill** では、読み方の技術としての基本を系統的に示しました。コミュニケーション英語 I では、

基本的な文のパターン、フレーズ・リーディング、談話標識、パラグラフの構成を扱いました。

9. **Sound Studio** では、音の連結、区切り、強勢・リズム、イントネーションを扱いました。
10. 巻末の**文法のまとめ**では、文法事項の整理と確認をすることができます。
11. 巻末の**Word List**、**Phrase List** では、中学校既習とみなした語(1,197語)とコミュニケーション英語Ⅰの新出語(423語)を掲載し、初出ページを示しました。
12. 巻末付録として、**Your Reaction Dialogs** を掲載し、学習上の配慮としました。
13. 各 **Your Reaction** の最後には **Anything more to say?** が、各課の最後には **Optional Reading** が、また全体の最後として **Optional Lesson** が 1 課あり、選択的に扱うことができます。

## 5 そのほか

1. 教科書全体で極力日本語の使用を抑え、**Take a Moment to Think** を新設したり、指示文を英語で示したり、熟語はできるかぎり英語で言い換えるなどして、英語で授業をする際の一助としました。
2. 本文はリズムや文の長さなどにも配慮し、音読指導にも適しています。
3. パラグラフの構成を意識し、本課本文だけでなく、**Summary** や **Your Reaction** の **Let's write about it** などの英文でも、生徒が自分で書く際のサンプルとなるように配慮しました。
4. 写真や図版を豊富に扱うことで題材に対する興味を喚起し、内容理解の一助になります。
5. レッスン扉の写真は授業の導入だけでなく、調べ学習の材料としても利用することができます。